

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4283742号
(P4283742)

(45) 発行日 平成21年6月24日 (2009. 6. 24)

(24) 登録日 平成21年3月27日 (2009. 3. 27)

(51) Int. Cl.

B 4 2 C 19/04 (2006. 01)

F 1

B 4 2 C 19/04

請求項の数 1 (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2004-219970 (P2004-219970)	(73) 特許権者	592107901
(22) 出願日	平成16年7月28日 (2004. 7. 28)		有限会社中村断截所
(65) 公開番号	特開2006-35681 (P2006-35681A)		東京都墨田区東駒形4丁目6番3号
(43) 公開日	平成18年2月9日 (2006. 2. 9)	(74) 代理人	100076071
審査請求日	平成18年4月5日 (2006. 4. 5)		弁理士 松浦 恵治
		(72) 発明者	中村 健一
			東京都墨田区東駒形4丁目6番3号 有限 会社中村断截所内
		審査官	郡山 順

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 折り畳み式小冊子の製本方法

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

矩形状の展開用紙を所定のパターンで四角形状に折り畳んで、折り畳み式小冊子を製本する折り畳み式小冊子の製本方法であって、矩形状の展開用紙における完成した折り畳み式小冊子の背表紙に相当する辺部分を中綴辺となし、この中綴辺をのり付けし、その後中綴辺以外の折り畳み縁部たる他の三辺の辺縁を切断除去することにより、複数の完成ページ数からなる折り畳み式の小冊子を製本する方法において、

前記展開用紙として、複数のページ分を事前に除去してある展開用紙を使用するようにしたことを特徴とする折り畳み式小冊子の製本方法。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、展開用紙を所定のパターンで四角形状に折り畳み、中綴辺をのり付けし、その後、中綴辺以外の他の三辺の折り畳み縁部の辺縁を切断除去して小冊子を製本する方法において、所望の完成ページからなる小冊子を得ることができる折り畳み式小冊子の製本方法に関する。

【背景技術】

【0002】

従来より、折り畳み式の小冊子を製本する方法として、矩形状の展開用紙を所定のパターン、具体的には、例えばジグザグ状に四角形状に折り畳んで複数の完成ページからなる

小冊子を製本する方法がある（例えば、特許文献1参照）。

【特許文献1】特開2002-036749号公報

【0003】

ここで、展開用紙を四角形状に折り畳むパターンとしては、ジグザク状に限られることなく、その他の折り畳みパターンを用いることも可能である。

このように、展開用紙を所定のパターンで四角形状に折り畳むことにより小冊子を製本する方法として、矩形状の展開用紙を四角形状に折り畳み、その中綴辺をのり付けし、その後、中綴辺を除いた、その他の三辺の辺縁を断截機で切断除去する方法が知られている。

【0004】

10

この小冊子の製本方法によれば、矩形状の展開用紙を所定のパターンで四角形状に折り畳むことで小冊子を製本するため、比較的容易に複数の完成ページからなる小冊子を製本することが可能であった。

この小冊子は、最小の完成ページ数が8ページであり、そのページ数を8ページより増やす場合には、 $8 \times n$ （ n ：整数）のページ数とすることが可能であった。

具体的には、小冊子は、8ページ、16ページ、24ページ…と、完成ページ数を8ページずつ増やすことが可能であった。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

20

しかし、小冊子のなかには、例えば完成ページ数を、16ページと、24ページとの間の20ページにしたい場合などがあり、そのケースでは従来の小冊子の製本方法では対応することはできなかった。

そこで、小冊子を、注文主の要求に応じて任意の完成ページ数に製本可能となるような技術の実用化が望まれていた。

【0006】

この発明は、小冊子の完成ページ数を任意に選択できるようにした折り畳み式小冊子の製本方法を提供して、上述した全ての問題点を解消しようとするものである。

【課題を解決するための手段】

【0007】

30

上記目的を達成するために、請求項1記載の発明は、矩形状の展開用紙を所定のパターンで四角形状に折り畳んで、折り畳み式小冊子を製本する折り畳み式小冊子の製本方法であって、矩形状の展開用紙における完成した折り畳み式小冊子の背表紙に相当する辺部分を中綴辺となし、この中綴辺をのり付けし、その後中綴辺以外の折り畳み縁部たる他の三辺の辺縁を切断除去することにより、複数の完成ページ数からなる折り畳み式の小冊子を製本する方法において、

前記展開用紙として、複数のページ分を事前に除去してある展開用紙を使用するようにしたことを特徴とする。

【0008】

40

製本に用いる展開用紙から、複数のページ分を事前に除去しておくことで、除去前の展開用紙で製本した場合の小冊子の完成ページ数よりも、事前除去した分だけ完成ページ数が少なくなる小冊子を製本することが可能となる。

これにより、印刷する印刷内容に合わせて、展開用紙から所望のページ分を事前に除去しておき、これにより小冊子の完成ページ数を任意に選択できるように対応した。

【発明の効果】

【0009】

請求項1に係る発明では、製本に用いる展開用紙から、複数のページ分を事前に除去しておくことで、印刷する印刷内容に合わせて、小冊子の完成ページ数を任意に選択できるようにして、小冊子の用途の拡大を図ることができるという利点がある。

【発明を実施するための最良の形態】

50

【0010】

以下添付図面に基づいて、本発明に係る折り畳み式小冊子の製本方法の一実施の形態を詳説する。

図1は本発明に係る製本方法で得た折り畳み式小冊子を示す斜視図、図2～図6は本発明に係る折り畳み式小冊子の製本方法を説明する図、図7～図8は本発明に係る折り畳み式小冊子の製本方法の変形例を説明する図である。

【0011】

図1に示す折り畳み式小冊子10は、矩形状の展開用紙11（図2参照）を所定のパターンで四角形状に折り畳むとともに、中綴辺12をのり付けし、中綴辺12以外のその他の三辺13、14、15の折り畳み縁部13a、14a、15a（図6参照）の辺縁を断

10

載機などで切断除去することにより、複数の完成ページ（例えば20ページ）の各ページ片10a、10b、10c…からなる折り畳み式小冊子を得る。ここで中綴辺12とは、矩形状の展開用紙11における完成した折り畳み式小冊子10の背表紙に相当する部分の

辺のことを意味している。

以下、折り畳み式小冊子10の製本方法を図2～図6に基づいて説明する。

【0012】

図2に示すように、折り畳み式小冊子10を製本するための基本となる展開用紙11を用意する。この展開用紙は、24ページの完成ページからなる小冊子を製本できる矩形状の用紙（想像線で示したエリアを含む）である。

【0013】

用意した展開用紙11のうち、図2における左上の角部から複数ページ（例えば4ページ）の除去ページ11aを、基本となる展開用紙11から事前に除去しておく。除去ページ11aを除去した展開用紙20のことを、以下、所望の展開用紙20と称する。

この所望の展開用紙20に、各ページ辺10a、10b、10c・・・に対応する印刷を施す。

なお、所望の展開用紙20内に印刷されている数字は、小冊子10を製本した際の完成ページの数を示している。

【0014】

次に、中綴辺12に相当する部位を除いたその他の三辺13、14、15（図1参照）に相当する部位にミシン目21を入れ、中綴辺12に相当する部位には帯状にのりを塗布

30

しておく。

なお、所望の展開用紙20を折り畳んだ際に、隣接する各中綴辺12同士が重なり合うが、その重なり合う中綴辺12にあっては、一方の中綴辺12側のみにのりを塗布しておけば十分である。

以下、中綴辺12のうち、のりを塗布した箇所（図面中で、網目状に表示した箇所）をのり付け部22と称する。

【0015】

この状態で、所望の展開用紙20の第1折り畳み箇所（第1ミシン目）21Aを矢印Aの方向に折り畳む。

すなわち、理解を容易にするために、ミシン目21のうち、第1ミシン目を21Aとして説明する。

40

【0016】

折り畳む箇所に第1ミシン目21Aを入れることで、折り畳む箇所を確実に折り畳めるようになる。

さらに、折り畳む箇所に第1ミシン目21Aを入れたので、折り畳んだ際に、重なり合う用紙と用紙との間にたまる空気を第1ミシン目21Aの開口を經由して外に逃がすことができ、折り畳み作業を一層容易にしている。

【0017】

図3に示すように、第1ミシン目21で折り畳んだ後、所望の展開用紙20を第2折り畳み箇所（第2ミシン目）21Bから矢印Bのように折り畳む。第1ミシン目21Aと同

50

様に、第2ミシン目を21Bとして説明する。

【0018】

ここで、完成ページ10と完成ページ11との間の中綴部12を示す箇所はのり付けしていない。小冊子10のページ数が20枚であるので、完成ページ10と完成ページ11とが小冊子10の真中に位置するためである。

このため、完成ページ10と完成ページ11との間の中綴部12をのり付けしないようにして、小冊子10を見開きしやすいようにしている（図5参照）。

【0019】

図4に示すように、第2ミシン目21B（図3も参照）で折り畳んだ後、所望の展開用紙20を第3折り畳み箇所（第3ミシン目）21Cから矢印Cのように折り畳む。ここでは第1ミシン目21Aと同様に、第2ミシン目を21Cとして説明する。

10

【0020】

図5に示すように、第3ミシン目21Cで折り畳んだ後、所望の展開用紙20を第4折り畳み箇所（中綴辺）12から矢印Dのように折り畳む。

図3で説明したように、完成ページ10と完成ページ11とが小冊子10の真中のページに位置するので、完成ページ10と完成ページ11との間の中綴部12にはのり付けをしないようにしている。

【0021】

図6に示すように所望の展開用紙20を折り畳むことで、のり付け部22と対面部とが重なって中綴辺12がのり付けされる。

20

この状態で、中綴辺12を除いたその他の三辺13、14、15の折り畳み縁部（辺縁）13a、14a、15aを切断除去する。

これにより、完成ページ数が20ページの折り畳み式小冊子10（図1参照）の製本行程が完了する。

【0022】

前記実施の形態では、展開用紙11のうち、左上の角部から4ページ分の除去ページ11aを除去した例について説明したが、展開用紙11から事前に除去する箇所は左上の角部に限定されるものではない。

その他の例としては、例えば、展開用紙11のうち、中央部から4ページ分の除去ページ11aを除去しても同様の効果を得ることができる。展開用紙11に形成する除去ページ11a、11bは、いずれの位置にあってもよい。

30

【0023】

また、前記実施の形態では、展開用紙11から4ページ分の除去ページ11aを除去した例について説明したが、除去するページ数は4ページに限定されるものではない。

その他の例として、例えば、図7に示すように展開用紙11のうちから2ページ分の除去ページ11bを除去して、この展開用紙30を用いても同様の効果を得ることができる。

【0024】

展開用紙11のうちから2ページ分の除去ページ11bを除去した場合は、小冊子10の完成ページ数は20ページとなる。

40

展開用紙11のうちから2ページ分の除去ページ11bを除去する場合にあっても、展開用紙11のうち、任意の箇所から除去することが可能である。

【0025】

このように、製本に用いる展開用紙11から複数のページ分の除去ページを除去することで、通常の展開用紙11で製本した小冊子10の完成ページ数よりも、完成ページ数が少ない小冊子10を製本することができる。

これにより、小冊子10に印刷する印刷内容に合わせて、小冊子10の完成ページ数を任意に選択できるようになる。

【0026】

具体的には、通常の展開用紙11を折り畳むことで小冊子10を製本した場合には、そ

50

の完成ページ数は、8の整数倍、すなわち8ページ、16ページ、24ページ…と8ページおきにページ数を増加させることしかできない。

【0027】

しかしながら、展開用紙11から複数のページ分に相当する除去ページ11a, 11bを除去しておくことで、小冊子10の完成ページ数を、例えば20ページにすることや、18ページにすることが可能になる。

すなわち、小冊子10の完成ページ数を、8ページ、10ページ、12ページ、14ページ、16ページ、18ページ、20ページ、22ページ、24ページ…と2ページおきに増加させることも可能となる。

【0028】

また、前記実施の形態では、所望の展開用紙20を一端から他端に向けて巻き付けるように折り畳む例について説明したが、図8に示すように、所望の展開用紙20を屏風のように、ジグザグ状に折り畳んでも同様の効果を得ることができる。

【図面の簡単な説明】

【0029】

【図1】本発明に係る製本方法で得た折り畳み式小冊子を示す斜視図である。

【図2】本発明に係る折り畳み式小冊子の製本方法に用いる展開用紙を説明する第1説明図である。

【図3】本発明に係る折り畳み式小冊子の製本方法を説明する第2説明図である。

【図4】本発明に係る折り畳み式小冊子の製本方法を説明する第3説明図である。

【図5】本発明に係る折り畳み式小冊子の製本方法を説明する第4説明図である。

【図6】本発明に係る折り畳み式小冊子の製本方法を説明する第5説明図である。

【図7】本発明に係る折り畳み式小冊子の製本方法の変形例を説明する図である。

【図8】本発明に係る折り畳み式小冊子の製本方法のもう一つの変形例を説明する図である。

【符号の説明】

【0030】

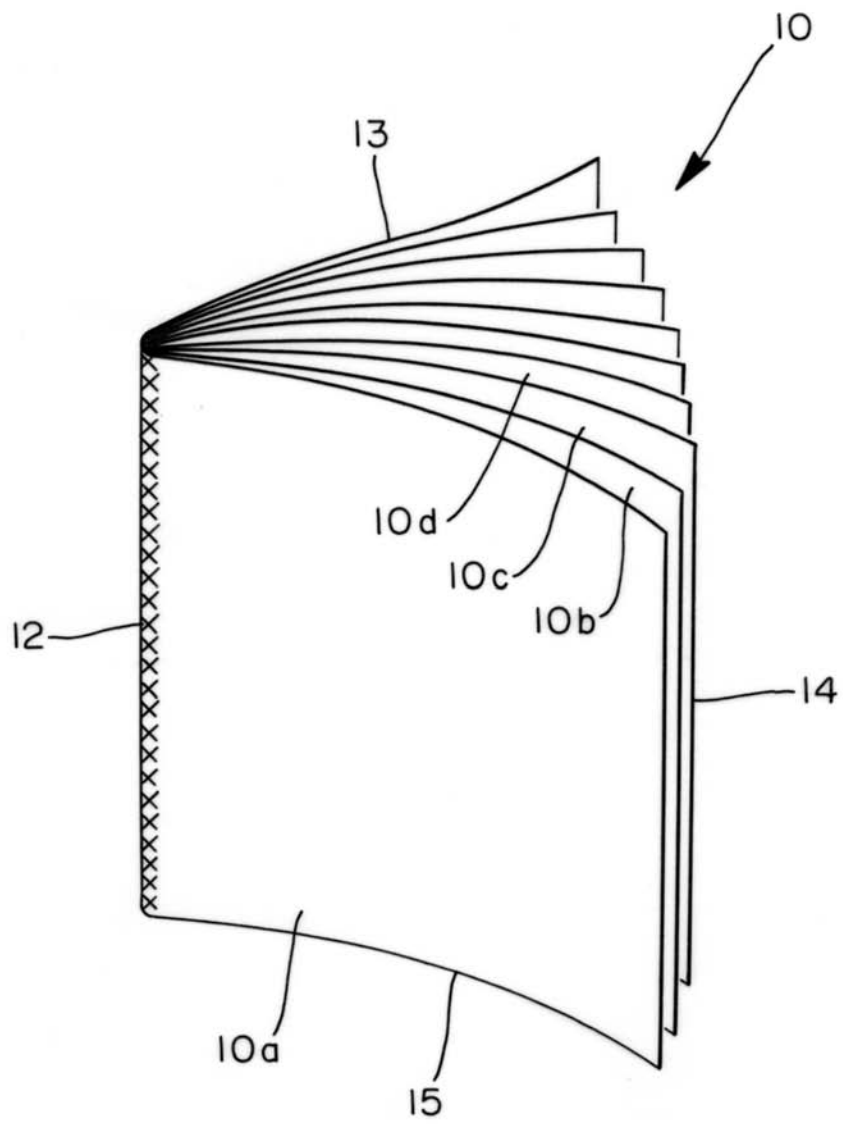
- 10…折り畳み式小冊子
- 11…展開用紙
- 20, 30…所望の展開用紙
- 12…中綴辺
- 13, 14, 15…その他の三辺
- 10a, 10b, 10c…各ページ辺
- 11a, 11b…除去ページ
- 13a, 14a, 15a…三辺の折り畳み縁部（辺縁）
- 21…ミシン目
- 21A, 21B, 21C…第1、第2、第3ミシン目
- 22…のり付け部

10

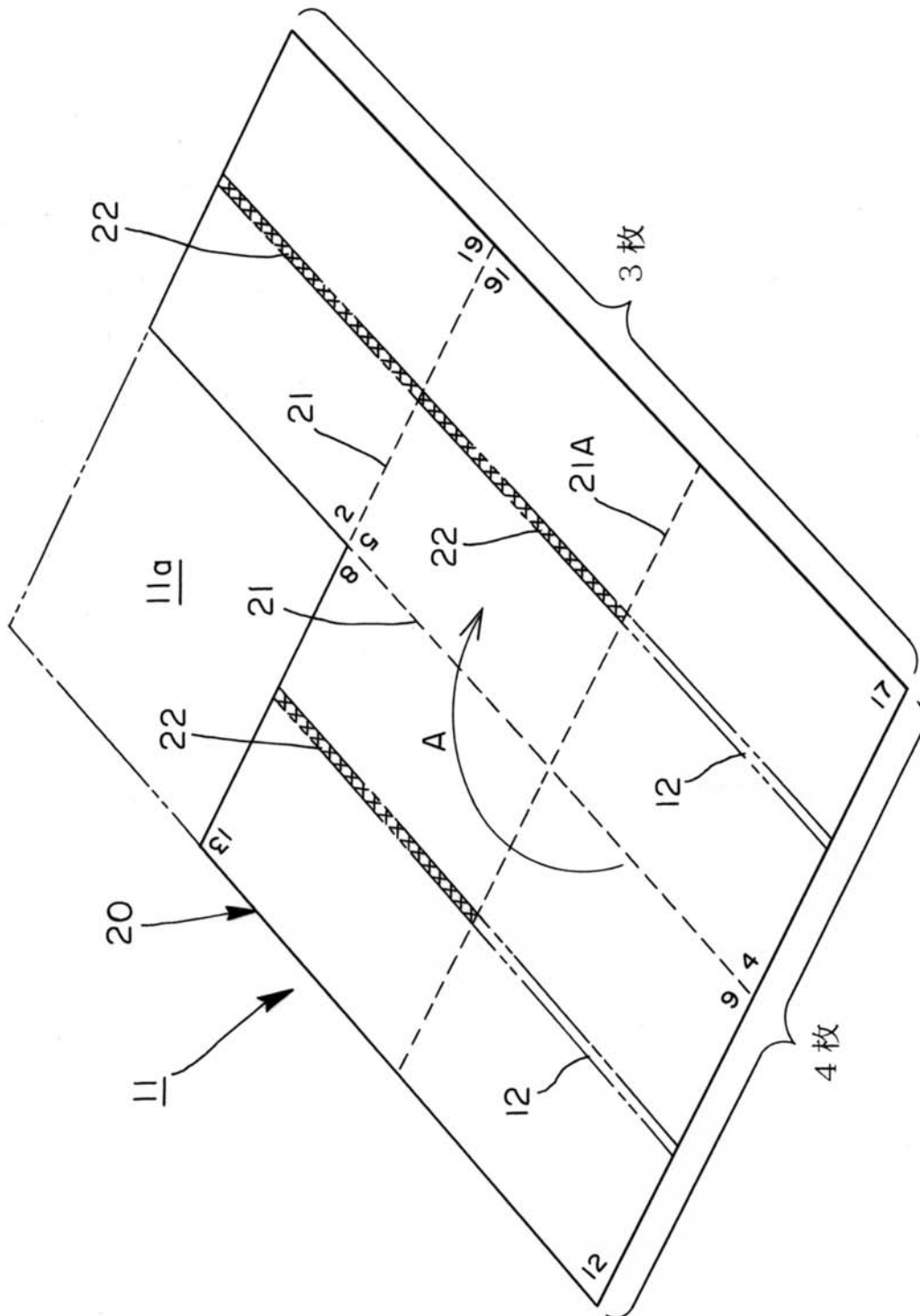
20

30

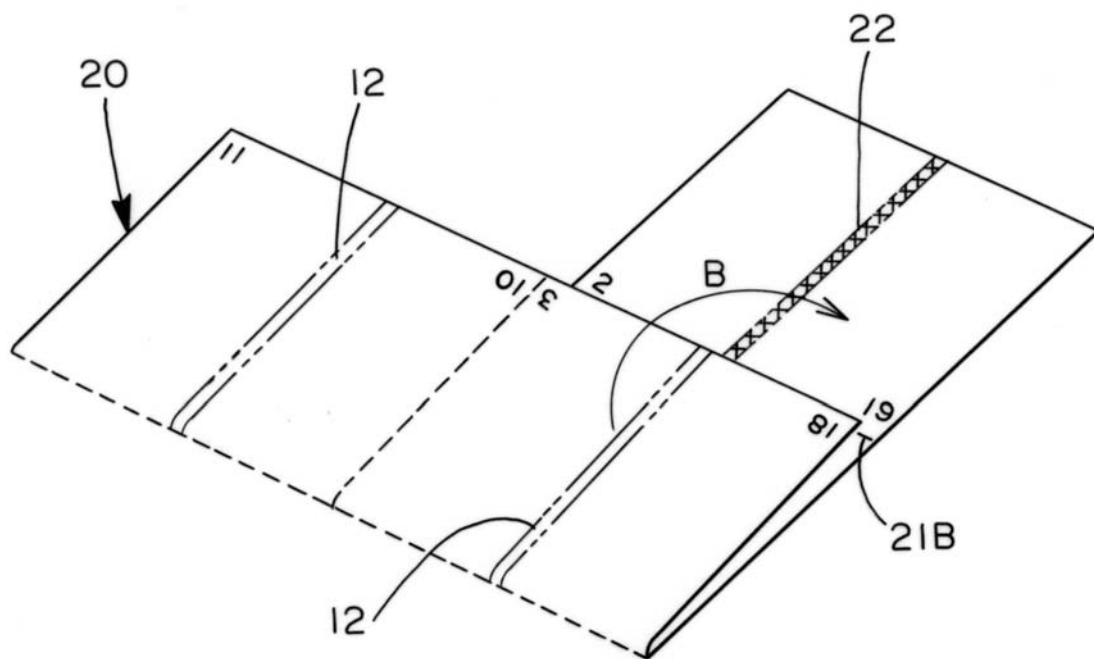
【図 1】



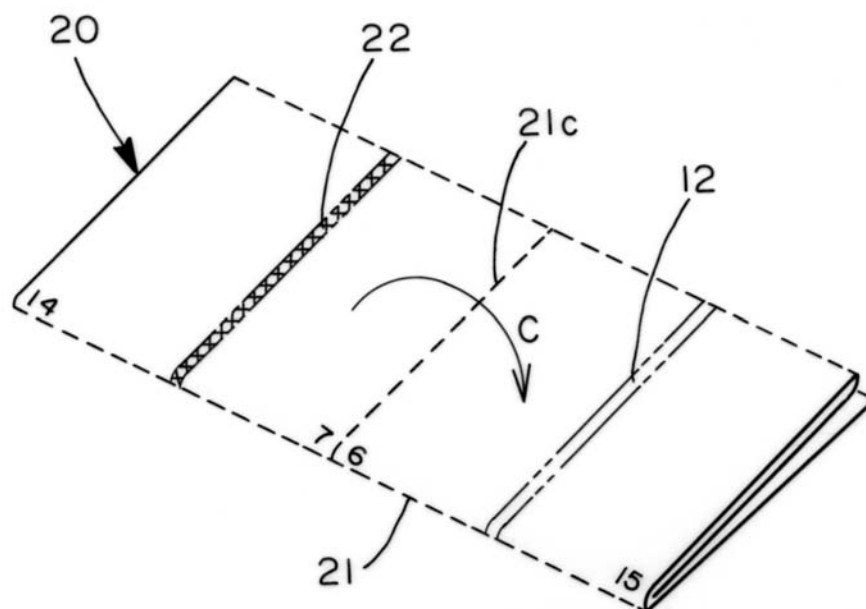
【図 2】



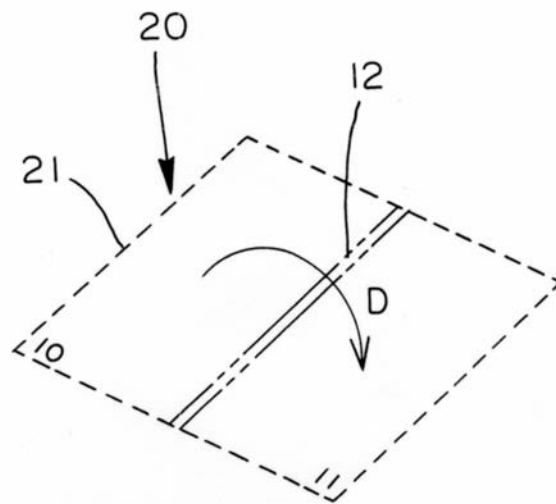
【図 3】



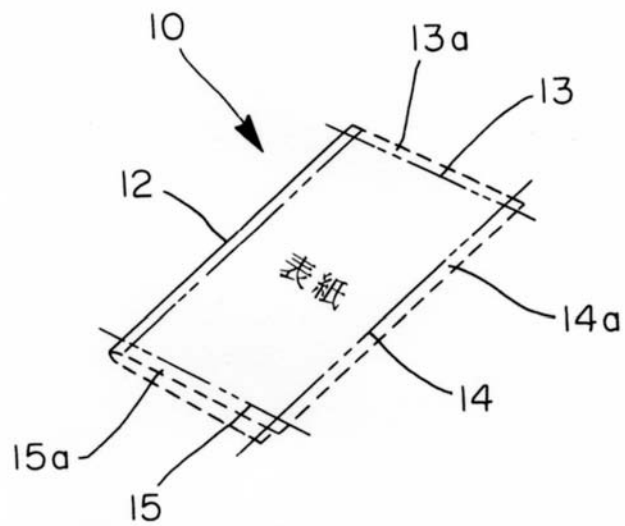
【図 4】



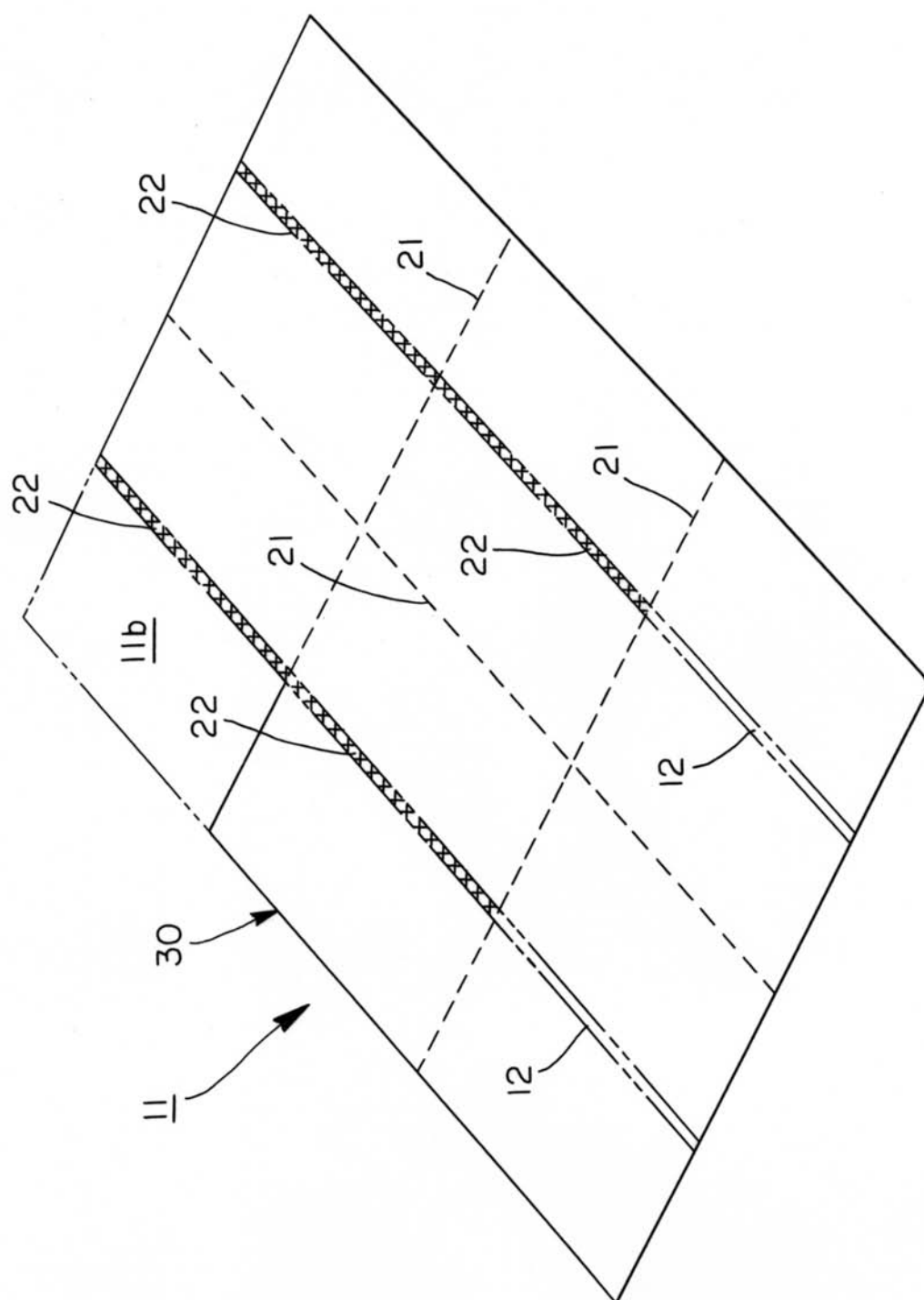
【図 5】



【図 6】



【図 7】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開2000-043445 (JP, A)
特開2004-106464 (JP, A)
特開2002-036749 (JP, A)
登録実用新案第3052330 (JP, U)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

B42C	19/00-19/08
	1/00-99/00
B42D	1/00-15/00
	15/04-15/08
	17/00-19/00
B42B	2/00- 9/06